



GIFU ECONOMIC
AND
INDUSTRIAL
PROMOTION
CENTER

観 光

令和2年度

担当者：主任調査役 加藤 和也

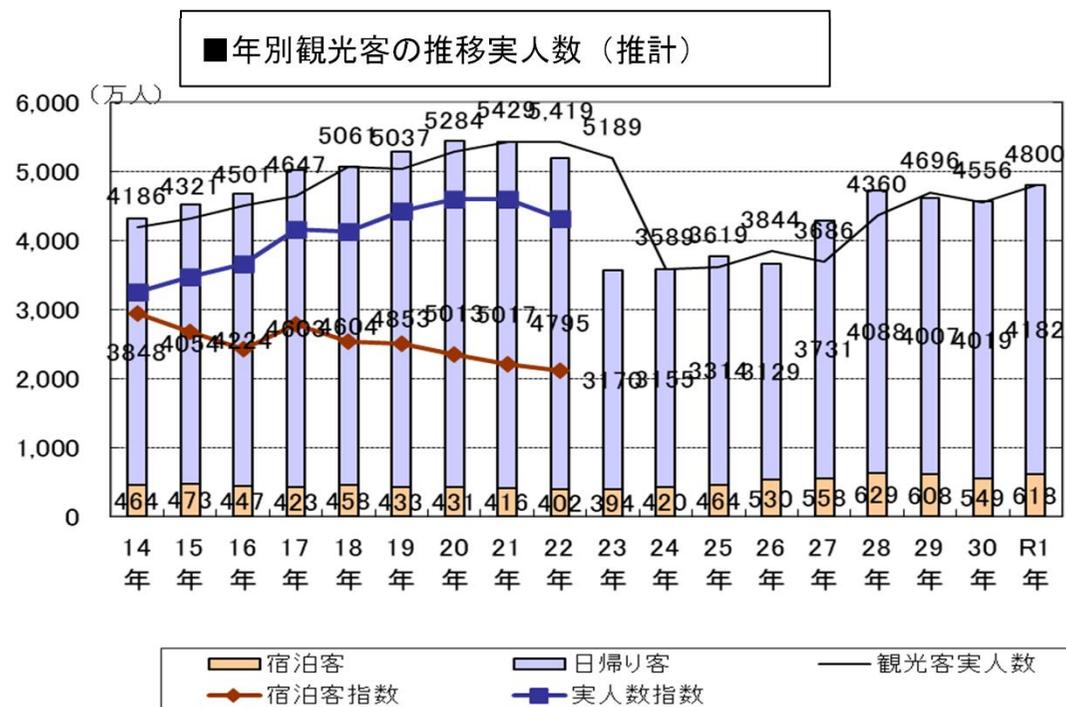
報告内容

- 1 岐阜県の観光の動向
- 2 全国から見た岐阜県の観光
- 3 最近の動向と課題
- 4 観光振興等についての意見・要望等
- 5 健全な民泊サービスの普及に向けた
取組み

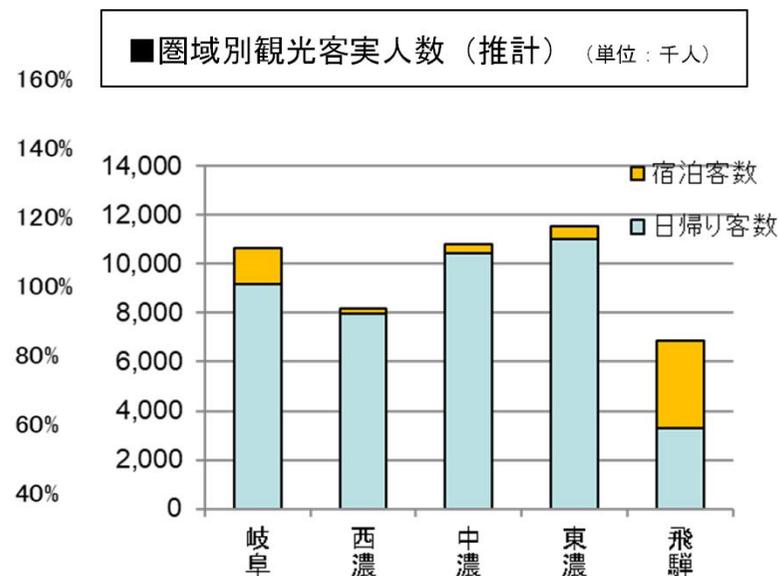
1 岐阜県の観光の動向

(1) 観光客の動向

令和元年の観光入込客数は、日帰り客数(前年比4.1%)は増加し、宿泊客数(前年比5.7%)も増加し、**全体では前年比4.3%増の4,800万人**であった。



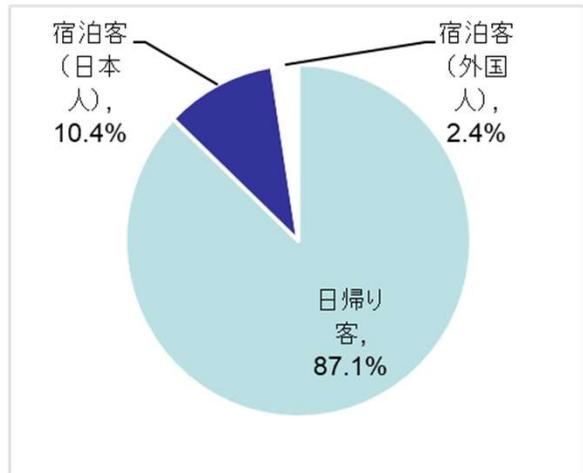
出所：令和元年岐阜県観光入込客統計調査(22年までとは調査手法が異なり比較不可)



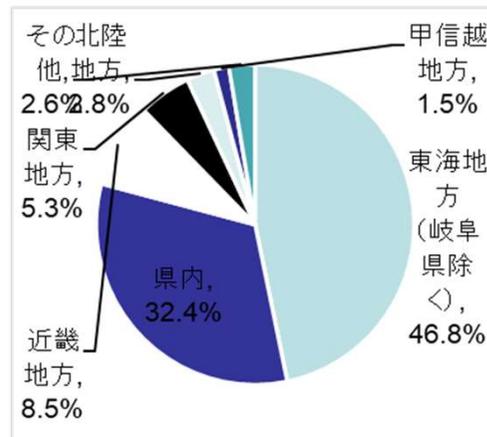
出所：令和元年岐阜県観光入込客統計調査

(2)観光客の状況

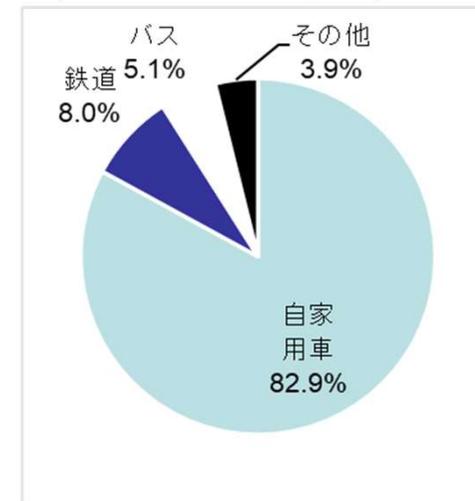
●外国人宿泊客が14.5%増
H30:101.9万人→R1:116.7万人



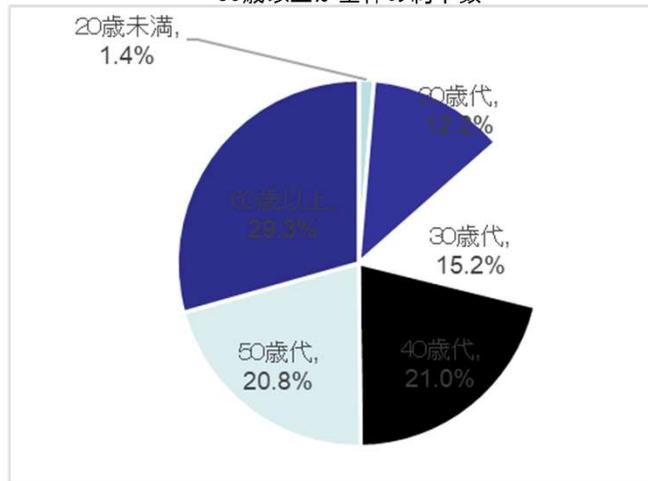
○東海4県からの観光客が8割



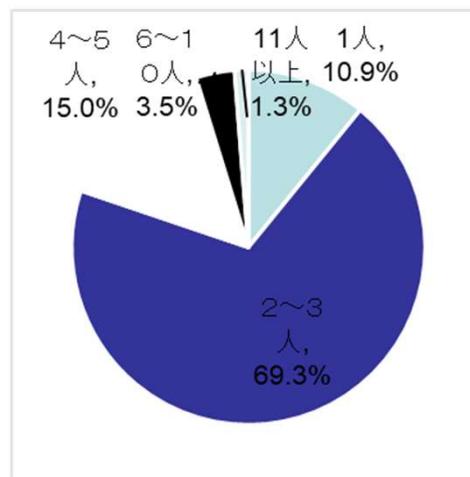
○8割が自家用車を利用



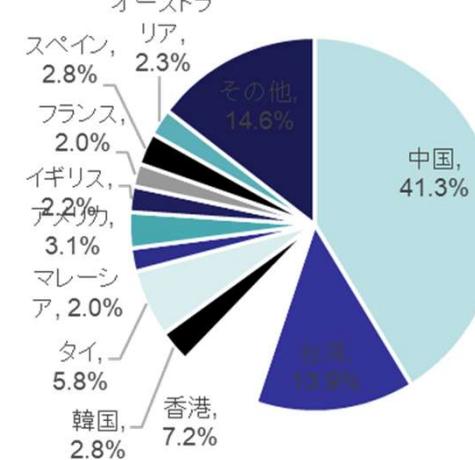
○シニア層の観光客が多い
50歳以上が全体の約半数



○小グループ旅行が大半
2~5人の旅行が全体の約7割



○外国人観光客はアジアが大半
中国・台湾・香港からの宿泊観光客で6割



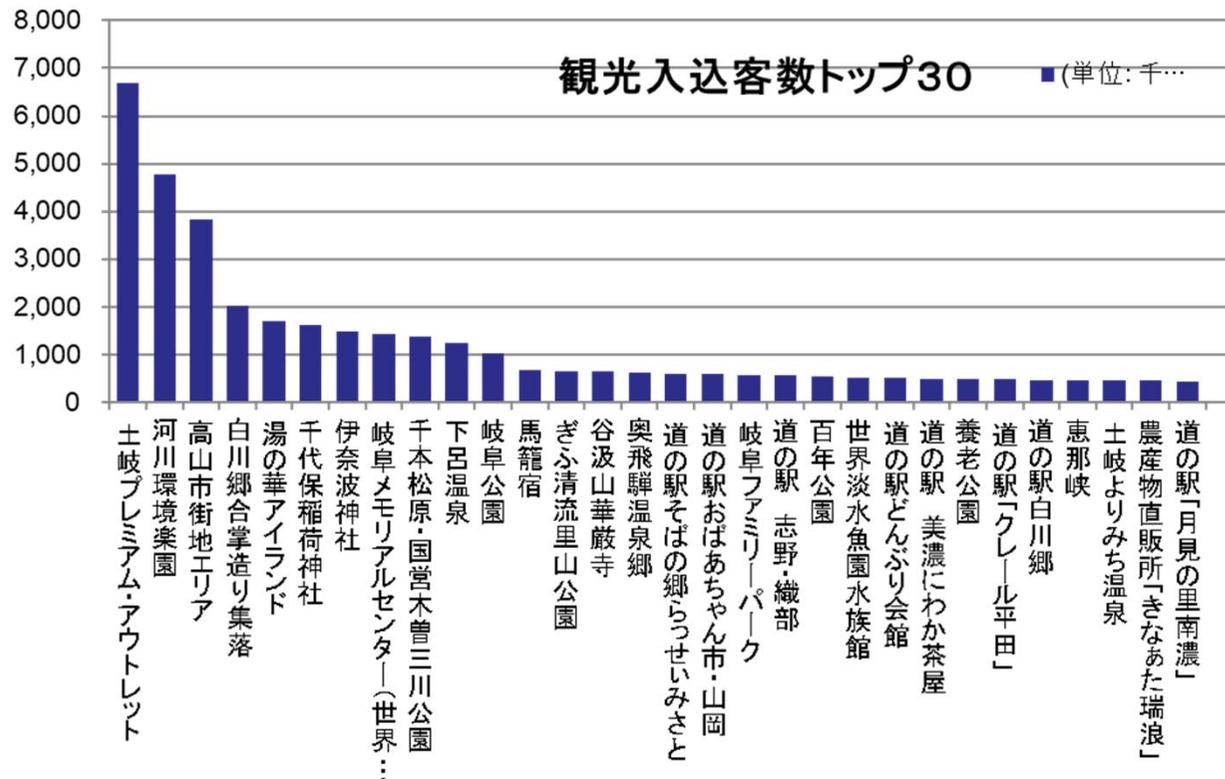
出所: 県観光課「平成30年観光入込客統計調査」

資料: 観光庁「宿泊旅行統計調査報告」から作成

(3) 主な観光ポイント



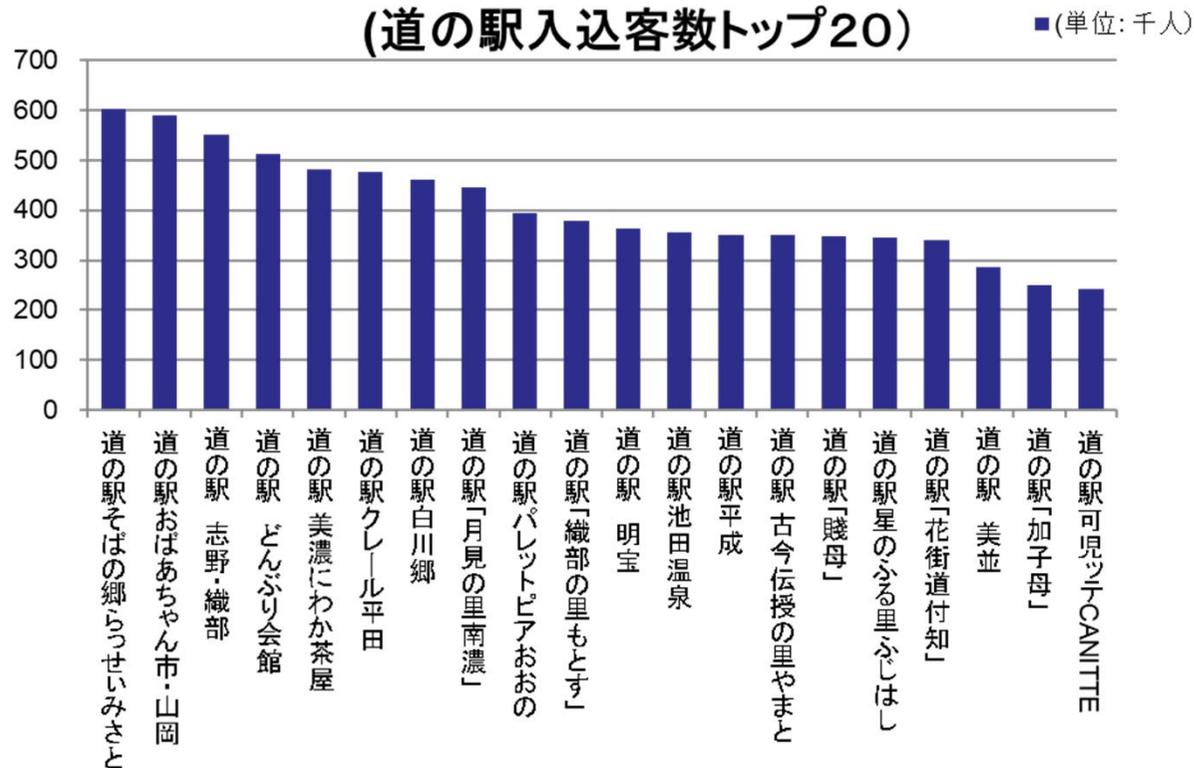
- ・県全体443観光地点中**上位30地点で約5割**の入込客
 観光地分類別では「**歴史・文化**」がトップで全体の**約24%**を占める
 (**土岐プレミアム・アウトレット**は引き続き**県内トップ**)



* 令和元年岐阜県観光入込客統計調査から作成

▪ 上位30地点中8地点が入る「道の駅」(集客力)

- 道の駅設置数は北海道に次いで**全国第2位**の56駅(全国1180駅)
- 道の駅等の集客数は**総入込客数7,160万人のうち24.2%、1,731万人**
- 通行中の**立ち寄り処から目的地化**による集客増加
- 今後求められる機能は**広域連携**や**観光情報・防災の拠点**など

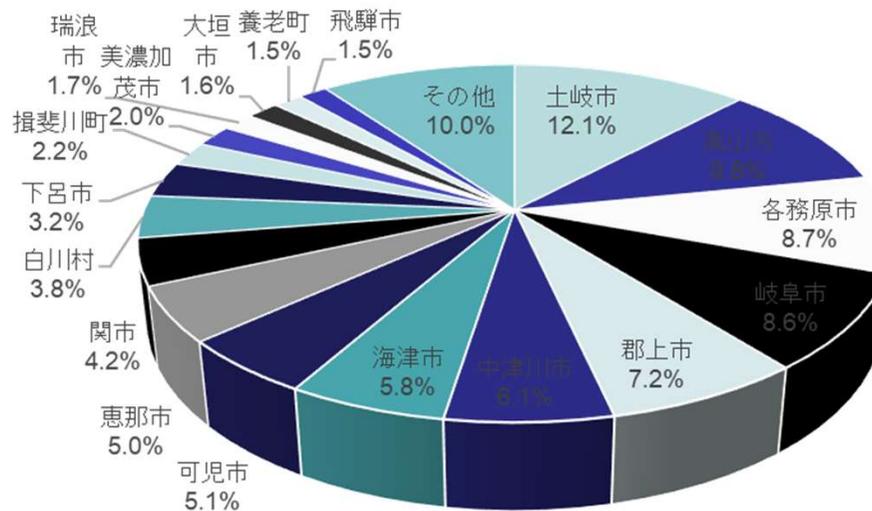


※令和元年岐阜県観光入込客統計調査から作成

(4) 市町村別の観光入込客数

- ・入込客数100万人以上の市町村は、**特別に集客力が高い観光地**を有している。
- ・特定の観光地点に特化しているのは、土岐市(**都市型観光**)、高山市(**歴史・文化**)、各務原市(**道の駅等**)、下呂市(**温泉・健康**)、白川村(**歴史・文化**)など。

■ 観光入込客数(延べ人数)



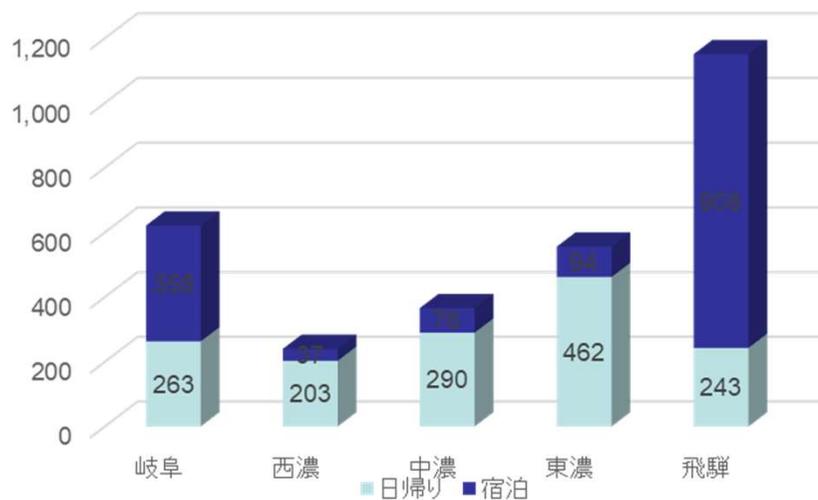
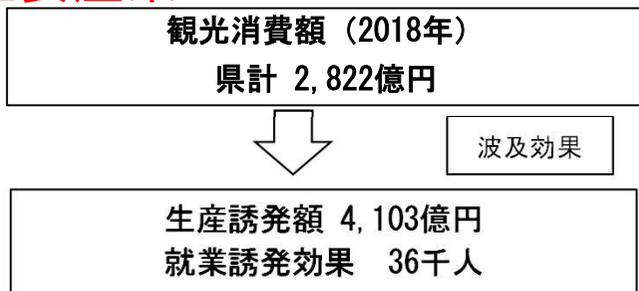
土岐市	8,660,631	12.1%	白川村	2,754,756	3.8%
高山市	6,988,752	9.8%	下呂市	2,285,384	3.2%
各務原市	6,266,393	8.7%	揖斐川町	1,602,937	2.2%
岐阜市	6,194,573	8.6%	美濃加茂市	1,402,261	2.0%
郡上市	5,167,385	7.2%	瑞浪市	1,189,280	1.7%
中津川市	4,334,540	6.1%	大垣市	1,177,406	1.6%
海津市	4,122,831	5.8%	養老町	1,074,909	1.5%
可児市	3,634,209	5.1%	飛騨市	1,066,085	1.5%
恵那市	3,547,267	5.0%	その他	7,159,774	10.0%
関市	2,998,376	4.2%			

(百万人以上市町村)

出所：県観光課「令和元年度岐阜県観光入込客統計調査」から作成

(5) 観光・交流産業における地域経済への貢献

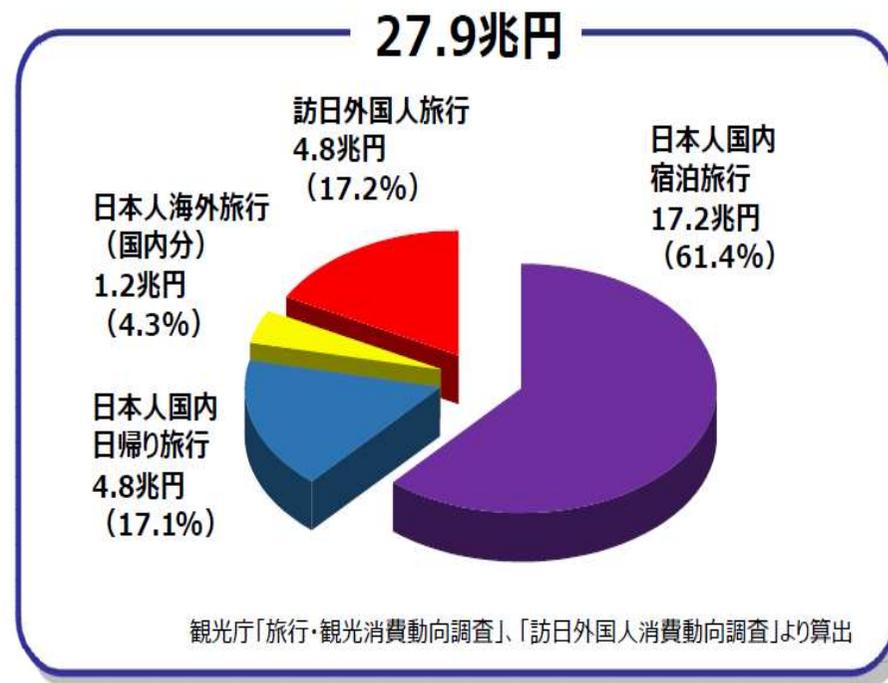
- 岐阜県における生産誘発額は4,103億円、就業誘発効果は3.6万人
- 観光・交流産業は裾野が広く、特に中山間地域にとっては地域を支える主要産業



出所: 県観光企画課「令和元年岐阜県観光入込客統計調査」から作成

2019年の旅行消費額について

「旅行・観光消費動向調査」2019年(確報)の公表に伴い、日本人海外旅行(国内分)や訪日外国人旅行者による消費額を含めた2019年の日本国内での旅行消費額を併せて公表します。



- 1人当たり観光消費額は、「日帰り」は「宿泊」の14.7%
- 1人当たりの消費額の「日帰り」は増加、「宿泊」は減少

■観光消費額と総生産との対比

(単位：億円、%)

圏域	観光消費額 (A)	市町村内総生 産 (B)	A/B
岐阜圏域	621	30,569	2.0%
西濃圏域	240	14,379	1.7%
中濃圏域	366	15,030	2.4%
東濃圏域	555	11,661	4.8%
飛騨圏域	1,151	6,050	19.0%
県計	2,933	77,689	3.8%

■1人当たり観光消費額

(単位：円、%)

圏域	日帰り	対前年度 比	宿泊	対前年度 比	合計	対前年度 比
岐阜圏域	2,871	123.4%	24,288	105.2%	5,839	103.5%
西濃圏域	2,553	102.0%	16,203	85.3%	2,931	100.9%
中濃圏域	2,780	97.8%	20,160	94.9%	3,382	94.6%
東濃圏域	4,198	123.7%	18,197	95.1%	4,823	116.8%
飛騨圏域	7,446	82.5%	25,314	93.0%	16,795	98.3%
県計	3,494	101.9%	23,830	96.4%	6,111	99.7%

出所：県観光企画課「令和元年県観光入込客統計調査」
県統計企画課「平成29年度市町村民経済計算」から作成

出所：県観光企画課「令和元年県観光入込客統計調査」

2 全国から見た岐阜県の観光

(1) 宿泊者数

- ビジネス需要が宿泊者数を押し上げる傾向

※「観光目的」は、「観光目的の宿泊者が50%以上」である施設の延べ宿泊者数

岐阜県は**観光目的割合が高い** 〇観光目的の宿泊者の割合



出所: 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2019年)から作成

※「観光目的割合」は、「観光目的の宿泊者が50%以上」である施設における延べ宿泊者数の全体に占める割合 10

スライド 10

加藤 和也1 加藤 和也, 2021/02/09

(2) 宿泊者お迎え指数(県民1人当たり延べ宿泊者数)

近隣では長野3位、石川4位、静岡8位、福井12位、富山29位
いずれも岐阜県(36位)より上位

— 地域観光資源ポテンシャルの発揮に期待 —

■ 宿泊者「お迎え」指数

順位		指数 (%)	延べ宿泊者数 (万人泊)	順位	2015年 国調人口	順位		指数 (%)	延べ宿泊者数 (万人泊)	順位	2015年 国調人口
—	全国	397	50,408	—	12,709	34	宮崎県	343	379	39	110
1	沖縄県	1,400	2,006	6	143	35	秋田県	338	346	41	102
2	山梨県	1,009	843	22	83	36	岐阜県	334	678	26	203
3	長野県	915	1,921	7	210	37	広島県	331	942	18	284
4	石川県	756	873	20	115	38	福岡県	316	1,614	11	510
5	京都府	699	1,826	9	261	39	徳島県	306	231	47	76
6	大分県	633	739	24	117	40	愛媛県	272	377	40	139
7	長崎県	630	867	21	138	41	岡山県	269	516	31	192
8	静岡県	609	2,253	5	370	42	兵庫県	256	1,416	12	553
9	北海道	606	3,259	2	538	43	愛知県	222	1,662	10	748
10	福島県	599	1,147	13	191	44	神奈川県	209	1,907	8	913
11	山形県	531	597	28	112	45	茨城県	197	574	29	292
12	福井県	529	416	36	79	46	奈良県	187	255	46	136
13	鳥取県	522	299	44	57	47	埼玉県	60	433	35	727

出所: 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2015年)、総務省「国勢調査」(2015年)から作成

(3) やや低い稼働率

岐阜県の宿泊施設の客室稼働率は全国的に見てやや低い水準
2月、4～5月、8～11月は通年平均を上回る

■ 客室稼働率 (2019年)

順位	平均	最大値	最小値	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
全国	62.7	69.4	54.0	54.0	61.9	63.4	65.0	63.2	60.6	63.3	69.4	63.4	63.6	65.6	62.7
1 東京都	79.5	85.3	71.7	71.7	80.4	82.5	85.3	78.4	77.0	79.4	78.8	79.2	80.1	82.9	79.5
2 大阪府	79.0	85.9	70.7	70.7	79.3	81.5	85.9	79.2	79.8	78.2	83.9	76.0	77.9	80.7	79.0
3 福岡県	71.7	75.2	64.7	64.7	74.7	75.2	74.8	71.7	72.0	70.9	73.4	68.3	72.2	75.1	71.7
4 千葉県	70.6	74.8	62.7	62.7	70.0	74.8	74.1	71.5	67.6	69.1	76.7	71.2	69.7	71.1	70.6
5 神奈川県	70.4	78.5	61.5	61.5	68.4	73.4	72.9	67.8	65.6	70.9	78.5	72.3	70.2	73.1	70.4
16 香川県	59.3	70.6	44.7	44.7	53.0	58.9	60.2	62.4	53.4	59.7	70.6	61.5	68.7	64.6	59.3
17 静岡県	59.1	73.8	51.0	51.0	58.3	63.0	60.2	57.1	53.9	60.8	73.8	58.6	54.7	62.3	59.1
18 岐阜県	58.0	66.2	51.3	51.3	58.9	56.8	62.3	60.1	52.7	55.0	66.2	59.0	58.3	62.3	58.0
19 佐賀県	58.0	62.5	53.3	53.3	58.1	62.5	61.9	60.1	54.2	58.2	60.4	57.7	56.6	62.2	58.0
20 宮城県	57.5	63.3	46.5	46.5	53.7	54.3	59.9	57.5	61.7	57.4	62.8	58.1	60.4	63.3	57.5
45 新潟県	44.3	56.8	40.0	40.0	46.8	44.2	41.8	43.3	40.9	44.6	56.8	46.3	45.6	44.2	44.3
46 奈良県	44.2	54.0	31.8	31.8	37.1	46.4	54.0	53.6	44.2	44.4	50.0	44.0	40.6	50.0	44.2
47 長野県	39.2	56.0	35.6	37.4	39.4	33.9	37.4	40.9	35.6	41.0	56.0	41.1	37.8	36.8	39.2

■ 従業者数別、施設タイプ別の客室稼働率

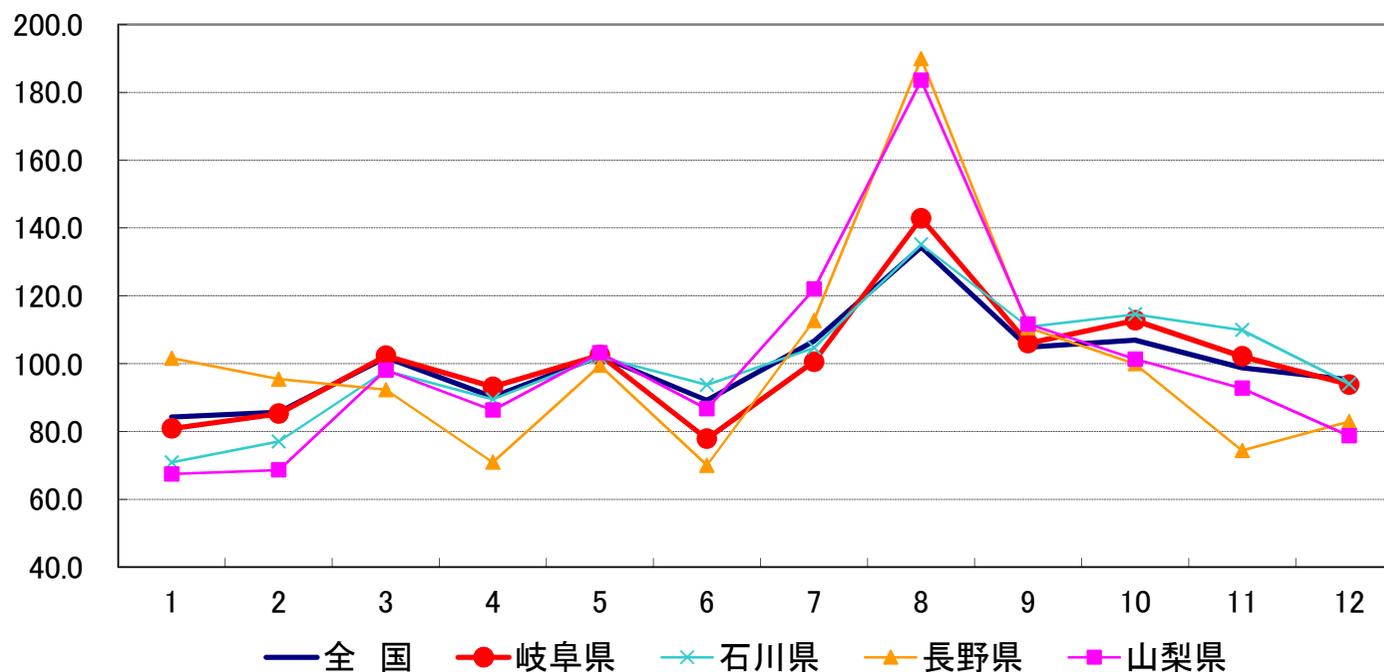
	全体	10～29人	30～99人	100人以上	旅館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル	会社・団体の宿泊所
全国	62.7	69.8	72.3	75.6	39.6	58.5	75.8	79.5	28.8
岐阜県	58.0	66.8	70.6	70.4	43.5	49.4	79.6	75.6	69.0

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」2019年から作成

(4) 大きい季節変動

- ・オフシーズンは宿泊者数がピーク月の5~6割
低い稼働率とともに経営の安定性を損なうため、平準化が課題

(月平均=100)



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(2019年)から作成

(5) 外国人宿泊客の動向

- 東京、大阪、愛知などいわゆる「ゴールデンルート」に集中
- 東アジアや東南アジアからの旅行者が多い

・官民で推進する「昇龍道」プロジェクトで中部・長野・石川両県への旅行者も増加
 ・2021年のオリンピックを目標に、増加を図る

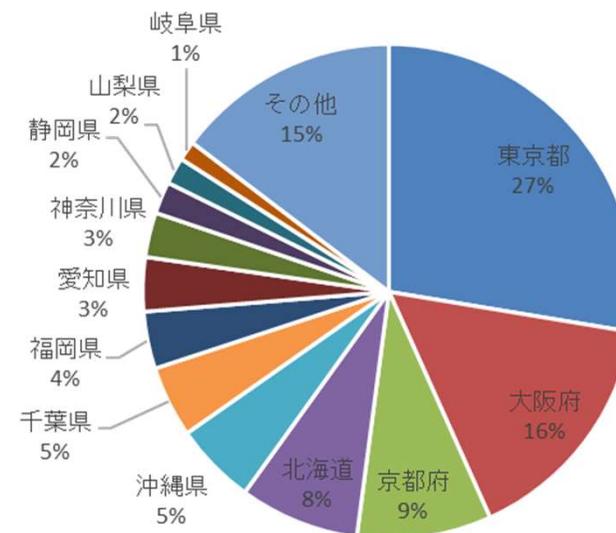
■ 国別外国人延べ宿泊者数

(単位:千人)

	合計	中国	台湾	香港	韓国	タイ	シンガポール	米国	オーストラリア	英・独・仏	スペイン	その他
全国	101,306	29,848	13,471	6,982	9,715	3,604	2,455	7,278	3,066	4,808	854	19,225
		29.5%	13.3%	6.9%	9.6%	3.6%	2.4%	7.2%	3.0%	4.7%	0.8%	19.0%
岐阜県	1,281	527	177	91	36	75	23	40	30	70	35	177
		41.1%	13.8%	7.1%	2.8%	5.9%	1.8%	3.1%	2.3%	5.5%	2.7%	13.8%

出所:観光庁「宿泊統計調査」(2019年)から作成(従業者10人以上の施設)(国籍不詳を含む。)

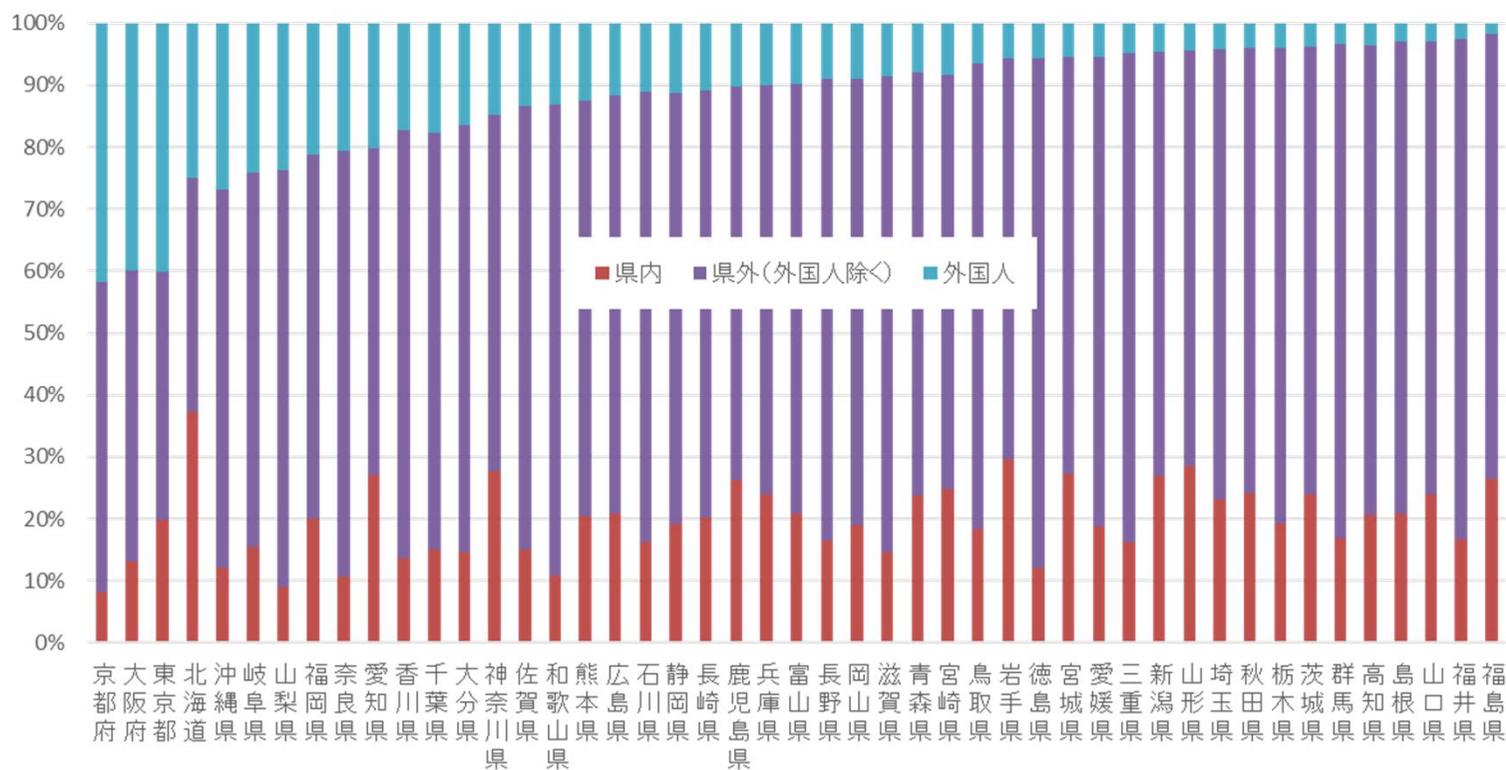
■ 外国人延べ宿泊者の状況



(6) 外国人宿泊客の割合

- 関東、近畿などに比べ東海地方の外国人宿泊客の割合は比較的低い。
岐阜県は6位(延べ宿泊者数に占める比率)で、全国の上位に位置。

延べ宿泊者数に占める県内・県外(外国人除く)・外国人の割合



出所: 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2019年)から作成

3 最近の動向と課題

(1) 交通インフラの整備とイベント等への対応

- 「線」(交通網) で「点」(観光地)を結び、「面」(滞在型広域観光)へ
- 観光地と宿泊地をセットにした**県内周遊観光**の推進
- H29 信長入城450年(岐阜市450プロジェクト)
- H30 東海北陸自動車道白鳥IC
～飛騨清見IC間4車線化
- R1 ラグビーワールドカップ2019
- R2 東海環状自動車道西回りルート開通
➡ 関西及び愛知・三重からの集客を期待
- R3 **東京オリンピック・パラリンピック開催**
- R5 中部縦貫自動車道(丹生川IC)開通
➡ 奥飛騨温泉郷がより身近に
- R8 第20回アジア競技大会(名古屋市)開催
- R9 リニア中央新幹線開業
➡ リニア車輛基地は貴重な観光資源



(2) 地方創生の核となる観光産業の育成

観光産業の裾野は広く、国内のみならず
インバウンドを含めると、発展の余地は大きい

- 旅行ニーズの多様化 「団体・物見遊山型」から「**個人・体験・交流型**」へ
 - ➡ 「自然とのふれあい」、「産業観光」、「歴史や伝統にふれる文化観光」、「温泉等を活用したヘルスツーリズム」、「農家民宿や農業体験」
- 観光客に魅力ある地域」づくり = **地域経済のリーダー**
 - ➡ 基本は、地域が地元の観光資源を再認識して商品化する「着地型観光」
住民が地域の素材の再発見を通じて、「自信」「誇り」を再認識する契機
 - ・ 「白川郷合掌造り集落」、「本美濃紙」、「山・鉾・屋台行事」、「清流長良川の鮎」などの世界遺産を観光に活用
 - ・ 「岐阜関ヶ原古戦場記念館」や「杉原千畝」の「人道の丘公園」を核とした広域観光の推進、「かかみがはら航空宇宙科学博物館」の整備(2018年3月)など
- 「ラグビーワールドカップ2019」、「2021東京オリンピック」の外国選手の合宿を誘致

「誘致活動」とともに「観光産業の強化」が両輪

(3) 県内外の広域連携組織の活用

各団体・機関が連携して、効率的・効果的な誘客活動の展開

ツーリズムEXPOジャパン

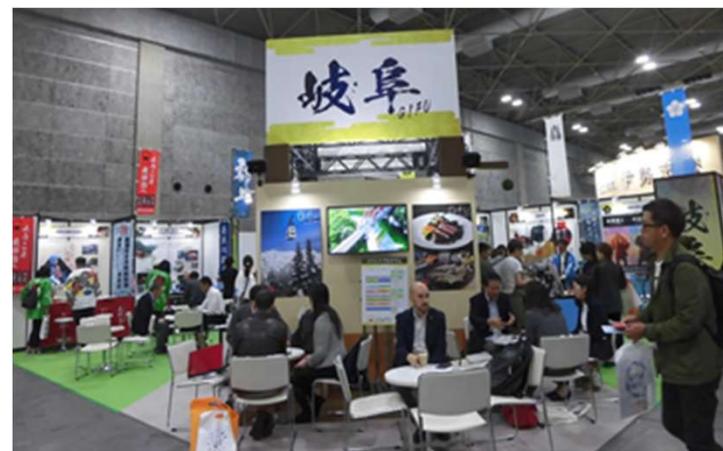
主な広域連携組織

《県外》

- ・昇龍道プロジェクト推進協議会
- ・飛騨木曾川国定公園連絡協議会
- ・奥の細道サミット
- ・木曾下伊那・中津川地域県際交流協議会
- ・ぶり街道推進協議会
- ・西美濃北伊勢観光サミット
- ・高岡・南砺・郡上台湾誘致協議会
- ・北陸・飛騨・3つ星街道誘客推進協議会
- ・信長公居城連携協議会 等々

《県内》

- ・岐阜・下呂・郡上観光宣伝協議会
- ・下呂・中津川広域観光振興協議会
- ・美濃中山道連合
- ・飛騨観光宣伝協議会
- ・西美濃広域観光推進協議会
- ・関・美濃・郡上長良川鉄道観光宣伝協議会
- ・飛騨地域観光協議会 等々



GIFUブース



下呂・中津川広域観光振興協議会

(4) インバウンドの取組

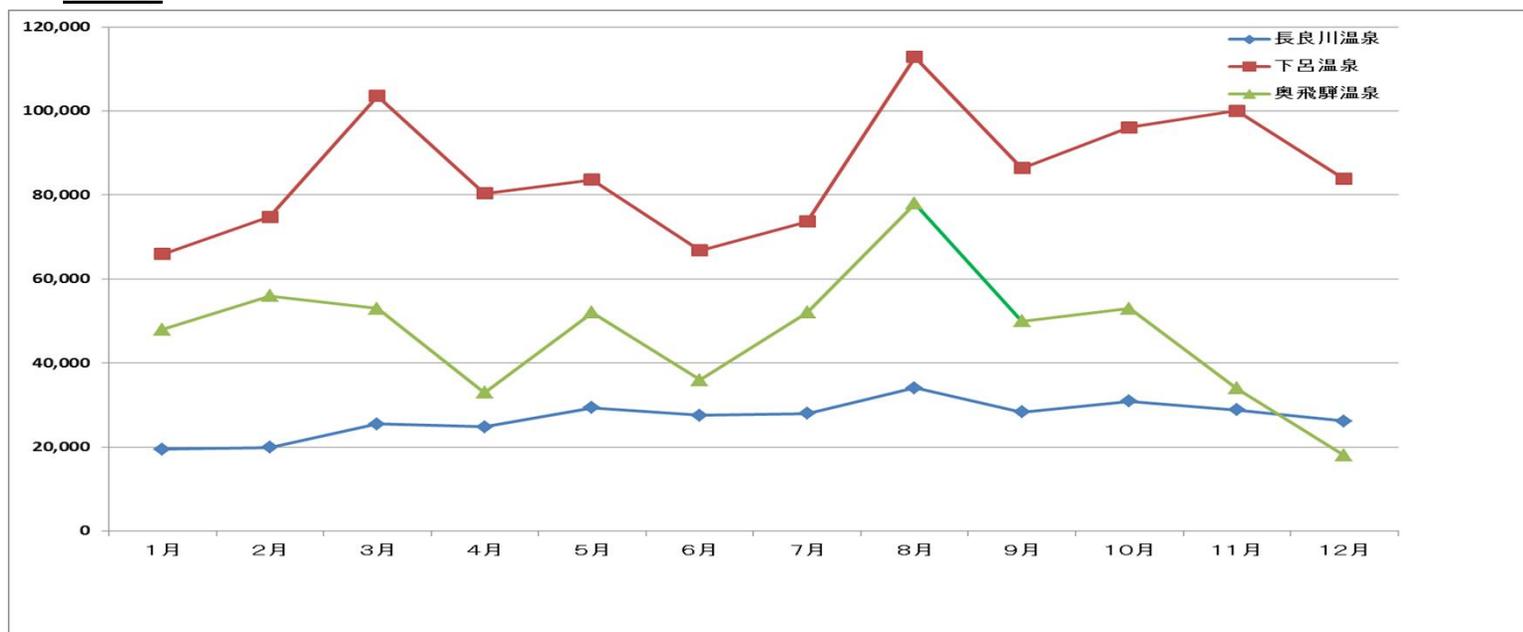
令和元年の訪日外国人数は前年比2.2%増の3,188万人に

円安、格安航空会社(LCC)の就航拡大、東南アジア向けビザ緩和が追い風

- 今後の人口減による国内旅行量の落ち込みをインバウンドでアジアの国・地域からのシェア(84.5%)は、平成12年以降急増し、アメリカやヨーロッパからの規模を大きく上回っている
 - ・訪日外国人は、中国で950万人を、米国で170万人を、タイで130万人を突破
 - ・ゴールデンルート等以外の観光地は外国人客に足を向けさせる方策が必須
アジアからのリピーター観光客が大幅に増加し、近時、地方の観光希望も強く、2度目の来訪者は地方を訪れるようになっている
 - ・ゴールデンルートだけでは飽きたらず、新たな体験・見聞のニーズは大きい
岐阜県の豊かな観光資源をPRし、「都市部＋岐阜」の観光プランも重要
- 平成28年4月に中国政府が個人への関税を強化したことにより、「爆買」は減少した。令和元年については、インバウンドは好調を維持していた。

(5) 閑散期の対応

- ・県内有名温泉地の月別宿泊者数は、3月、8月が多く、
4月、6月、12月が少ない
- ・どこの観光地でも同じであるが、夏は盛況で宿泊施設はほぼ満杯
春、秋は、花見・新緑、紅葉等で、ある程度、観光客はあるが、冬はスキー場以外は少ない
- ・冬季のイベントを企画し、中国・台湾からの「春節」関連の誘客を図る



4. 観光振興等についての意見・要望等

○リニア新幹線の観光面での活用

- ・広域的な観光ルート(「中津川ー下呂(宿泊)ー郡上」等)化を図る。(観光協会)
- ・世界で唯一のリニア新幹線の修理工場ができるので、観光面での活用を考えていく。(市町村)

○「聖地巡礼」

- ・アニメ(飛騨市「君の名は。」、高山市「氷菓」、美濃加茂市「のうりん」、岐阜市「ルドルフとイッパイアッテナ」、大垣市「聲の形」等)の聖地巡礼を行うツアー(高山線→東海道線)を企画する。
- ・「聖地巡礼」という新たな観光形態に対応するため、平成29年2月3日に「ぎふアニメ聖地連合」が8市町で発足。(飛騨市、岐阜市、大垣市、下呂市、多治見市、恵那市、美濃加茂市、輪之内町)

○「民泊」

- ・民泊新法が平成30年6月に施行され、県に届け出れば、年間180日以内の範囲で開業できる。外国人宿泊客にとって必要とされる東京や大阪などの大都市に限り適用し、岐阜県の実情にあった制度となるようにして欲しい。(旅館・ホテル)

5. 健全な民泊サービスの普及に向けた取組み

○国内外の旅行者が安心して利用できる民泊サービスの普及拡大

円滑な届出を促進すること等により、違法民泊から合法民泊への転換を図るとともに、これまで宿泊施設が普及していなかった地方も含めて、良質な民泊を展開。

○違法民泊の排除

民泊運営システム等を通じて情報共有を図りつつ、地方自治体、厚労省、警察庁等の関係機関と連携して、違法民泊の排除を推進

○民泊を活用した観光振興・地域活性化の促進

空き家・空き室、古民家等の遊休資産を有効活用した民泊の好事例の創出・情報発信等を通じ、観光振興・地域活性化に貢献する民泊サービスを促進。

岐阜県の状況 (2021年2月8日時点 **届出:145件・事業廃止:14件**)

6. 新型コロナウイルス感染症の観光への影響

○コロナ禍で2020年訪日客411万6千人、前年同期比87.1%減

訪日外国人旅行者数はビジット・ジャパン(VJ)事業がスタートした2003年には521万人だったが、査証(ビザ)の要件緩和、プロモーションの効果などで増加基調に。8年連続で過去最高を記録し、2019年には3188万2千人に達したが、コロナ禍で状況が一転した。

○国内旅行消費額前年比54.9%減

日本人による2020年の国内旅行消費額は、9兆8982億円であった。コロナ禍で2010年以降では過去最低となった。

消費増税のあった2014年(18.4兆円)以降は5年連続で20兆円を上回り、昨年は21.9兆円と過去最高になったが、コロナによる旅行需要の低迷で半分以下に落ち込んだ。